



切り出した材木で森の中に基地をつくる

いつでも、どこでも、 誰でも、自然体験

自然体験で子どもたちの生きる力を育もうと、武蔵野市では、子どもたちが自然と直接触れ合う機会が少なくなっていることから、さまざまな自然体験事業に全市をあげて取り組んでいます。

武蔵野市自然体験事業

自分たちで考え自分たちでつくる4泊5日 「ふるさと満喫・家族ふれあい自然体験」

武蔵野市教育委員会生涯学習スポーツ課では、この夏、武蔵野市の友好都市・遠野(岩手県)で、「家族ふれあい自然体験・岩手県遠野コース」を行います。この取り組みは、市長部局が主管する「鳥取コース」とともに、家族で自然と直接ふれあいながら様々な生活体験を満喫できる事業として実施されます。

参加者は現地の民家に分宿しながら、農業体験や川遊び、虫採り、魚釣り等、都会では体験できない様々な自然体験を満喫できる4泊5日を過ごします。次々に準備されたできあいのプログラムに参加するのではなく、ゆったりとした時間の中で自分たちで考え自分たちでつくる体験を大切にしています。夕飯は裏の畑で取れたものを食べる、魚釣りは裏山から竹を切り出して釣りざおを作るところからはじめる、竹細工もキットがあるわけでもなく材料を選ぶところから始まる、といった感じで、生活体験がそのまま自然体験になるような内容になっています。

生涯学習スポーツ課長の平岡さんは「子どもの時の“原体験”“実体験”を何より大切にしたい。失敗したら、そこから学んで、もう一度やり直す。短期間の自然体験であっても子どもたちにとっては人生が変わるほどの変化が起こる。」と、この事業への期待を語ります。

森林の魅力を肌で感じる… 土曜学校「森林体験教室」

教育委員会では、小中学生を対象に、土曜日を利用して学校の授業ではできないいろいろな体験や活動をする「土曜学校」を行なっています。いろいろな活動や体験の中で「ひらめく」「かんじる」を大切にしながら、自分で何かをみつけ「かんがえる」力を養うことを目的に19講座が年間を通じて開かれています。この「土曜学校」でも、NPO団体「森づくりフォーラム」の協力を得ながら自然体験事業・森林体験教室(青梅市・二俣尾の武蔵野市民の森)を行っています。小学校低学年を対象にした初級編では、森の探検、木登り、伐採、薪割りなどを、小学校高学年から中学生を対象にした中級編では、伐採、ロープワーク、伐採した木をつかった基地づくりなどを体験します。木の切り倒しは林業家でも

緊張する危険な作業です。慣れない山の斜面での作業にも危険が伴います。ノコギリやオノなどの刃物を使いこなすのも技術が必要です。武蔵野市にはない自然の中で実際に林業作業をすることの爽快感はもちろん、こうした危険を伴う作業を十分な指導の下で体験することを通じて、あらためて森林の魅力を感じながら、森林の役割を理解し、林業の厳しさ自分たちの生活との密接な関わりを理解することにつながっているそうです。

全市をあげて取り組まれる自然体験事業

武蔵野市では、自然体験事業の充実に向けて全市をあげて取り組んでいます。

市立の小学校5年生と中学校1年生全員に学校のカリキュラムとして行われる長期宿泊の「セカンドスクール」、市内12地区の青少年問題協議会が主体となって行われる「ジャンボリー」のほかに、「学校ピオープ」、「ファミリーキャンプ」、「親子どろんこ体験」など数多くの事業が教育委員会をはじめ市の様々なセクションによって行われています。そして、こうした事業は、ほぼ全ての年齢層をカバーできるように体系化されています。また、最初に紹介した「家族ふれあい自然体験」のように東京から大きく離れて実施するものもあれば、森林体験講座のように都内の自然を体験するもの、そして武蔵野市内の身近な自然を利用したもの等、さまざまな参加の仕方ができるようになっています。

直接自然と触れ合うことによって体験する「感動」「驚き」「発見」が、自然や環境への理解につながり、観察力や探究心、学習意欲や創作力が育まれます。また、他人と協力しあいながら、自然の中で実際に生活する技術や知恵を、他人と協力しあいながら生み出していく中で、人と人の関わり方、自分への自信と他人への思いやり、協調性を身に付けていくことにつながります。

武蔵野市では、子どもたちが自然体験や生活体験を日常的に経験できなくなっている今、行政、学校、家庭、地域が協力しあいながら意図的にその機会を生み出す努力が必要になっているとの考え方の下、自然体験・生活体験事業の体系化と充実に向けて、近く、市の「子ども自然体験委員会」として提言を出す予定になっています

★この事業についてのお問い合わせは「武蔵野市教育委員会 生涯学習スポーツ課」まで。電話0422-60-1902